©Ｃｏｐｙｒｉｇｈｔ ２０１０ BROTHER INDUSTRIES, LTD.

P-touch Template manual

機種名　TD-4000/4100N

＜作成＞　ブラザー工業株式会社

対応モデル: TD-4000/4100N

ご注意

本資料は、お客様が直接対応モデルを制御される場合に必要な情報を提供するものです。
お客様が以下の内容にご同意いただいた場合のみ、本資料のご利用が可能です。もしご同意いただけない場合は、お客様は本資料をご利用いただけません。

ご利用条件

お客様は、お客様ご自身が対応モデルをご利用いただくため（以下「本目的」といいます）に必要な範囲においてのみ、本資料を使用し、複製することができるものとします。なお、お客様は次のことを行ってはならないものとします。

(1) 本目的以外の目的で本資料を複製すること
(2) 本資料を改変し、翻案・翻訳し、または第三者に再頒布すること
(3) 本資料を第三者に貸与・提供すること
(4) 本資料に含まれるブラザーの権利に関する表示を削除・改変すること

無保証

(a) 対応モデルおよび本資料のバージョンアップや修正等はブラザーが任意で行うものとし、お客様からの本資料の内容に関するお問い合わせまたはご要望に対しては一切応じかねます。
(b) ブラザーは本資料に関し、明示または黙示であるかを問わず、瑕疵がないこと、特定の目的に適合することを含め、その他いかなる保証も行いません。
(c) ブラザーは本資料および本資料に基づきお客様が作成したプログラムに起因して発生した直接的または間接的損害について、お客様に対し、いかなる責任も負わないものとします。

以上

【目次】

はじめに..... 4
P-touch Template とは？ 4
P-touch Template の使い方 5
設定ツール説明書..... 6
P-touch Template 制限事項 11
注意事項.....19
印刷が開始されない場合（よくある主な原因） 20
付録：仕様 21

はじめに

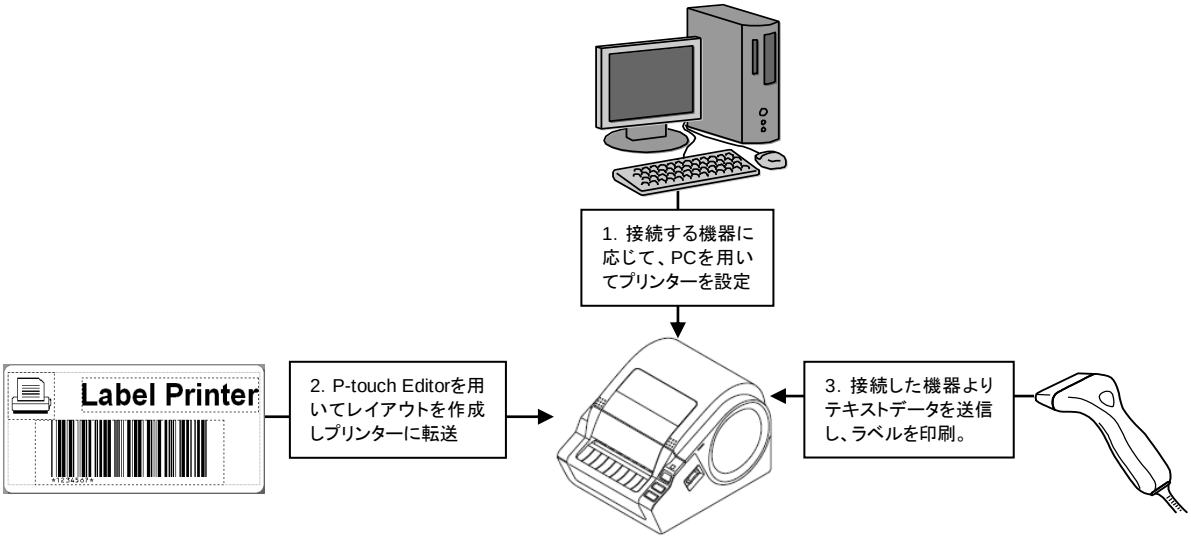
本書は TD-4000 及び TD-4100N へ転送したレイアウトにデータを流し、PC 以外の機器を直接制御して印刷する方法が記されています。

本書は、お客様の開発環境における動作システムやRS-232Cに関しての知識がある方への説明書となっております。万一、本書を元にプログラムを開発したにもかかわらず、TD-4000及びTD-4100N及び、P-touch Templateを用いたシステムなどのデータが消えたり変化した場合、生じた損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。加えて、本書はいかなる請求の証拠にもなり得ませんので、あらかじめご了承ください。

また、本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載することは禁じられています。

P-touch Template とは？

P-touch Template とは、接続した機器より、送られてきたテキストデータを TD-4000 及び TD-4100N に保存しているレイアウトのテキストオブジェクト、バーコードオブジェクトに反映させることが出来るツールです。



P-touch Template は PC 無しでの印刷を可能にし、また手間無くラベルのデータのみを変更できるツールです。

接続が可能な機器は、下記の様なものです。

－バーコードリーダー

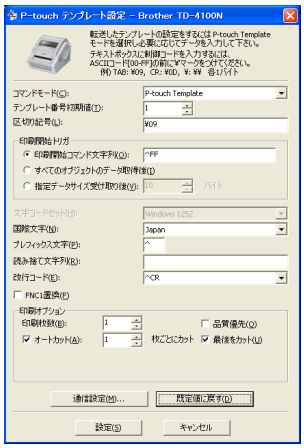
－計量機器

－医療機器　　など

※ 注意：

- 接続が可能な機器には、データを転送するためのシリアルケーブル（RS-232C）が必要です。
- 機器によっては、データを転送できないものもございます。

P-touch Template の使い方

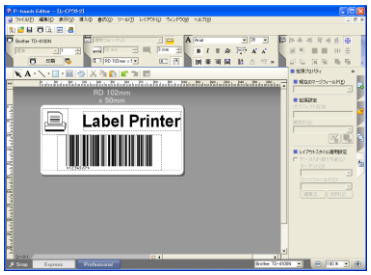


1．本体設定

TD-4000 及び TD-4100N の接続先の環境や接続機器に合わせて、「P-touch テンプレート設定」を作動させて、TD-4000 及び TD-4100N の本体をセットアップします。

（本書の**設定ツール説明書**をご参照ください。）

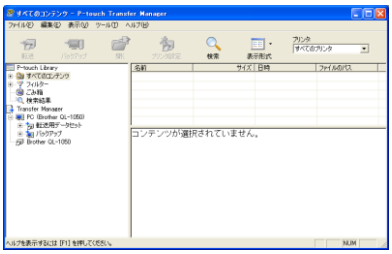
*あらかじめ USB 接続によりプリンタードライバーをインストールしてください。



2．レイアウトの作成

P-touch Editor で本体に転送するレイアウトを作成します。

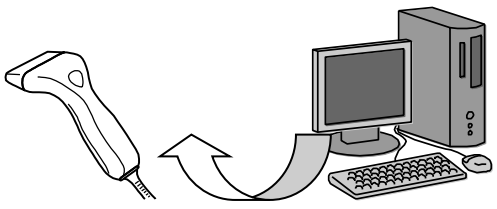
（本書の **P-touch Template 制限事項**をご参照ください。）



3．レイアウトの転送

P-touch Transfer Manager を使用して、レイアウトを本体に転送します。

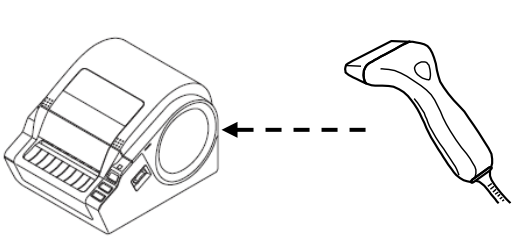
（TD-4000 及び TD-4100N の**ソフトウェアユーザーズガイド**をご参照ください。）



4．P-touch Template コマンドによるプログラム

本体を制御するために特別なコマンドが必要であれば、P-touch Template コマンドリファレンスに従って接続する機器のプログラムを変更してください。

（本書の P-touch Template コマンドリファレンスをご参照ください。）



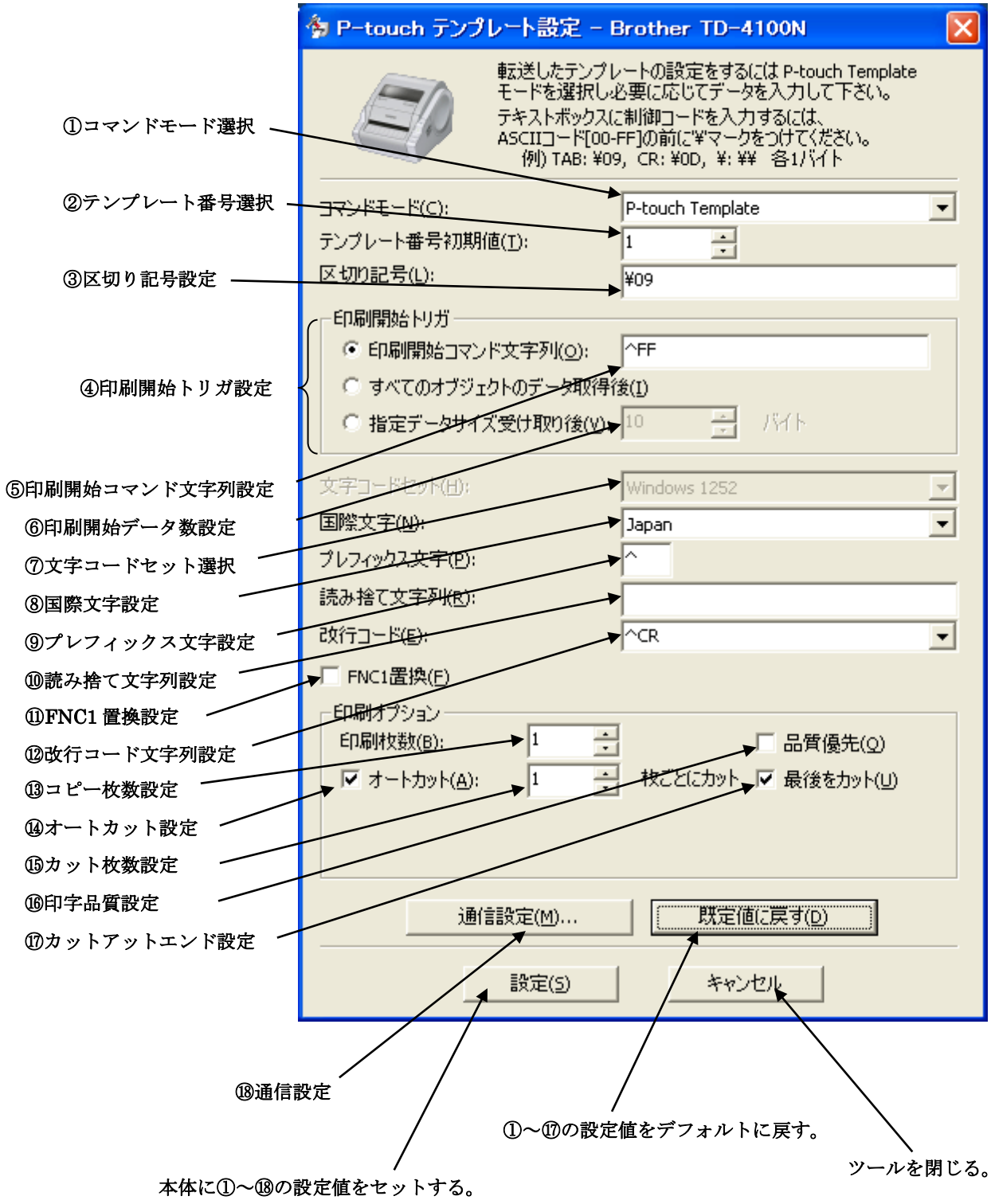
5．機器との接続から印刷

シリアルケーブルを使用して、接続する機器と本体を繋いでください。

接続する機器からテキストデータを本体へ送り、ラベルを印刷します。

※使い方の詳細に関しては、同梱されているサンプルをご参照ください。

設定ツール説明書


P-touch テンプレート設定 – Brother TD-4100N
転送したテンプレートの設定をするには P-touch Template
モードを選択し必要に応じてデータを入力して下さい。
テキストボックスに制御コードを入力するには、
ASCIIコード[00-FF]の前に'¥'マークをつけてください。
例) TAB: ¥09, CR: ¥0D, ¥: ¥¥ 各1バイト
コマンドモード(C):
P-touch Template
テンプレート番号初期値(T):
1
区切り記号(L):
¥09
印刷開始トリガ
印刷開始コマンド文字列(O):
^FF
すべてのオブジェクトのデータ取得後(I)
指定データサイズ受け取り後(V):
10
バイト
文字コードセット(H):
Windows 1252
国際文字(N):
Japan
プレフィックス文字(P):
^
読み捨て文字列(R):
改行コード(E):
^CR
FNC1置換(F)
印刷オプション
印刷枚数(B):
1
品質優先(Q)
オートカット(A):
1
枚ごとにカット
最後をカット(U)
通信設定(M)...
既定値に戻す(D)
設定(S)
キャンセル
①コマンドモード選択
②テンプレート番号選択
③区切り記号設定
④印刷開始トリガ設定
⑤印刷開始コマンド文字列設定
⑥印刷開始データ数設定
⑦文字コードセット選択
⑧国際文字設定
⑨プレフィックス文字設定
⑩読み捨て文字列設定
⑪FNC1 置換設定
⑫改行コード文字列設定
⑬コピー枚数設定
⑭オートカット設定
⑮カット枚数設定
⑯印字品質設定
⑰カットアットエンド設定
⑱通信設定
本体に①～⑱の設定値をセットする。
①～⑰の設定値をデフォルトに戻す。
ツールを閉じる。

①コマンドモード選択

- P-touch Template モード
  P-touch テンプレートを使用する場合は、P-touch Template モードを選択する。
- ESC/P モード
- Raster モード

②テンプレート番号選択

電源ＯＮ時に、デフォルトで選択されるテンプレート番号を設定する。
ただし、本体に転送されていないテンプレート番号を設定することはできない。

③区切り記号設定

区切り記号とは、データの流し込み対象を、次のオブジェクトに移行する時に使う記号である。１～２０文字の文字列で設定する。

④印刷開始トリガ設定

印刷開始トリガを、以下の３つの中から１つ選択する。

- 印刷開始コマンド文字列受信時
  (⑤で設定した印刷開始コマンド文字列を受信した時、印刷を開始する。)
- 全てのオブジェクトが埋まった時
  (最終オブジェクトで、区切り記号を受信した時、印刷を開始する。)
- 設定されている文字数受信時
  (⑥で設定した文字数を受信した時、印刷を開始する。ただし、区切り記号は、文字数にカウントされない。)

⑤印刷開始コマンド文字列設定

１～２０文字の文字列で設定する。

⑥印刷開始データ数設定

印刷開始データ数は、１～999 の値で設定が可能である。

⑦文字コードセット選択

選択不可。

⑧国際文字設定

各国別の文字セットを、以下から選択する。

・ ＵＳＡ
・ フランス
・ ドイツ
・ イギリス
・ デンマーク
・ スウェーデン
・ イタリア
・ スペイン
・ 日本
・ ノルウェー
・ デンマークⅡ
・ スペインⅡ
・ ラテンアメリカ
・ 韓国
・ リーガル

上記選択の国により、以下の１２コードが切り替わる。

２３ｈ　２４ｈ　４０ｈ　５Ｂｈ　５Ｃｈ　５Ｄｈ　５Ｅｈ　６０ｈ　７Ｂｈ　７Ｃｈ　７Ｄｈ　７Ｅｈ

切り替わる文字に関しては、P-touch Template Command　国際文字セット表参照のこと。

⑨プレフィックス文字設定

プレフィックス文字コードを変更する。１文字の文字コードで設定する。

プレフィックス文字とは、P-touch Template モードで使えるコマンドを識別するための先頭文字コードである。

⑩読み捨て文字列設定

ここで指定された文字列は、データ受信時に読み捨てられる。１～２０文字の文字列で設定する。

⑪FNC1 置換設定

バーコード規格ＧＳ１－１２８(ＵＣＣ／ＥＡＮ－１２８)などに含まれるＧＳコードを、ＦＮＣ１コードに置き換える機能を設定する。

チェックボックスにチェックを入れると、受信したＧＳコードをＦＮＣ１コードの置き換える。チェックをはずすと、受信したＧＳコードはそのまま出力される。

⑫改行コード文字列設定

改行コードとは、データ流し込み時、以降のデータをテキストオブジェクト内の次の行に移動したいときに使うコードである。改行コードを以下の４つの選択肢から選択するか、１～２０文字の文字列で設定する。

１．＾ＣＲ

２．￥０Ｄ￥０Ａ

３．￥０Ａ

４．￥０Ｄ

⑬コピー枚数設定

コピー枚数を設定する。１～９９枚まで設定可能である。

⑭オートカット設定

オートカットＯＮ設定の場合、⑮で設定された枚数毎にカット動作を行う。

⑮カット枚数設定

１～９９枚に設定可能である。

⑯印字品質設定

印字品質設定を行う。チェックボックスにチェックを入れると、印字品質が優先されるモードになる。チェックボックスをはずすと、スピードが優先されるモードになる。

⑰カットアットエンド設定

オートカット設定がＯＮの場合、この設定をＯＮにすると、⑮で設定した枚数毎の他に、印刷終了時にもカットをする。

⑱通信設定

シリアル通信に関する以下の４つの設定ができる。

・ ボーレート

115200bps 57600bps 38400bps 31250bps
28800bps 19200bps 14400bps 9600bps
4800bps 2400bps 1200bps 600bps 300bps

・ ビット長(bit)

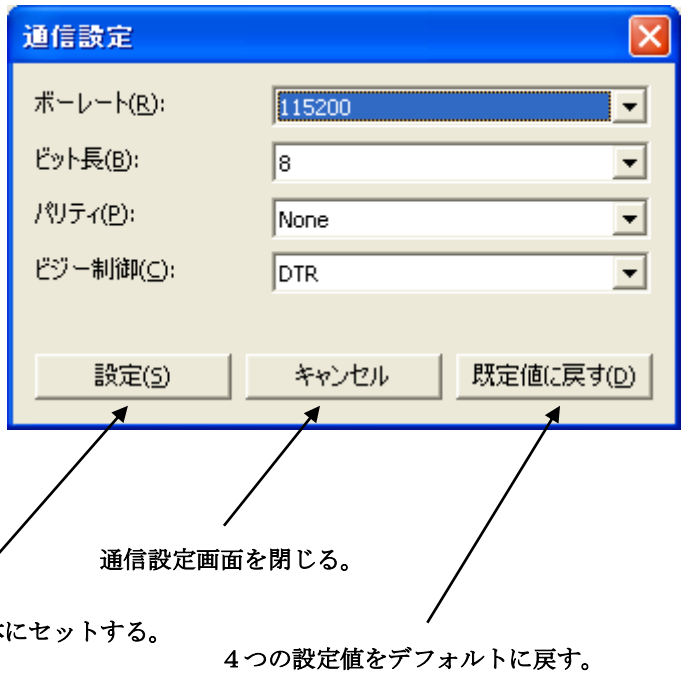
8bit 7bit

・ パリティー

None Odd Even

・ ビジー制御

DTR XON/XOFF



通信設定画面を閉じる。

４つの設定値を本体にセットする。

４つの設定値をデフォルトに戻す。

その他

・ini ファイル

[設定]ボタン（メイン画面または通信設定画面）をクリックした後、終了時に値を保存する。

（TD-4000 の場合）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥Pts3135.ini

（TD-4100N の場合）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥Pts3235.ini

・テキストボックス③⑤⑨⑩への文字入力

テキストで入れられる文字はテキストで入力し、制御コードなどは、¥マークを前につけて ASCII コード[00 - FF]で入力ができる。

例；PRINT ；[PRINT]

TAB 制御コード；[¥09]

復帰制御コード；[¥0D]

¥ ；[¥¥]

P-touch Template 制限事項

■テキストオブジェクト関係

・P-touch Editor で設定したフォントは、本体転送時、１バイトコードならばヘルシンキに、２バイトコードならゴシックに変換される。

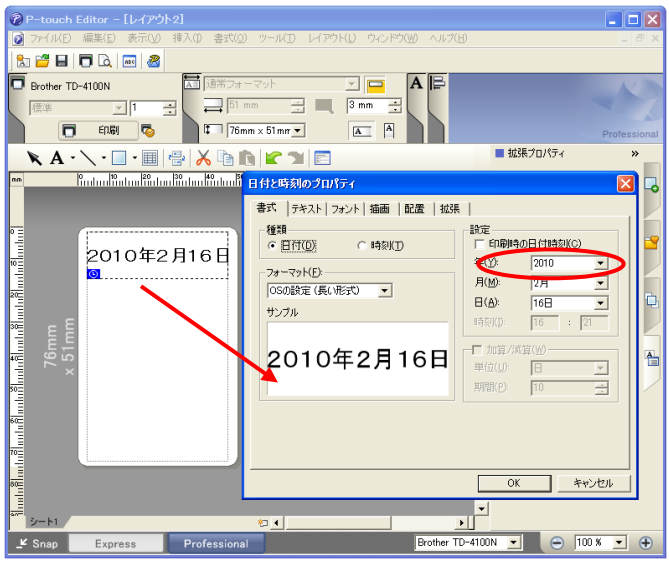
・P-touch Editor で設定した文字サイズは、本体転送時、本体内蔵の近いサイズに変換される。

・P-touch Editor で設定した文字サイズは、オブジェクト内で全て同じサイズになる。

・P-touch Editor で設定したタイムスタンプは、「印刷時の日付時刻」設定有の場合、空白印刷され、「印刷時の日付時刻」設定無の場合、P-touch Editor で作成時の日時で印刷される。

・テキストオブジェクト内の文字は、転送時のＰＣの言語に対応した文字セットが使用される。

＜「印刷時の日付時刻」の設定箇所＞



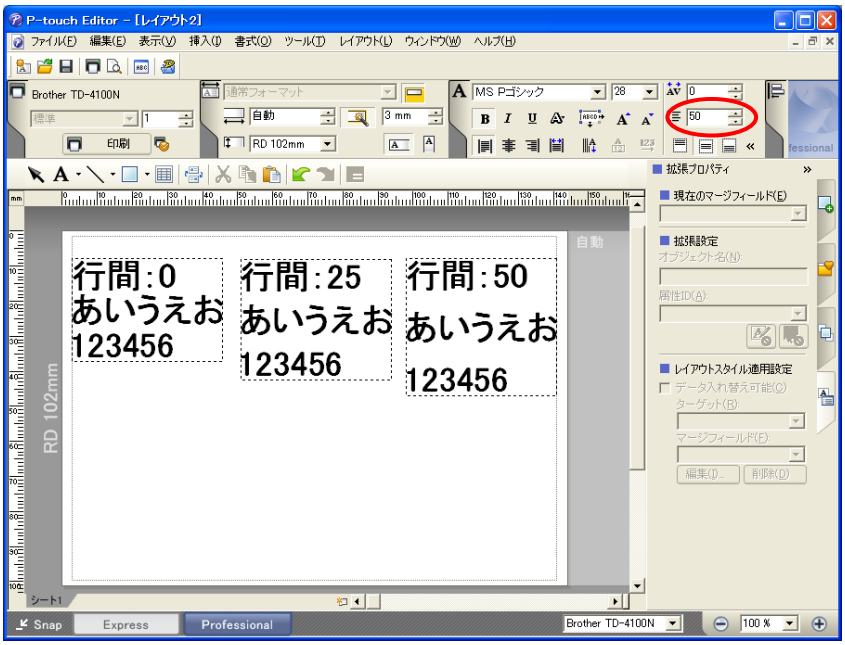
（P-touch Editor で、「日付と時刻のプロパティ」の「印刷時の日付時刻」の設定を解除するには、「日付と時刻のプロパティ」オブジェクトのプロパティを開き、「印刷時の日付時刻」チェックボックスを OFF にする。）

・P-touch Editor で設定した水平配置（“均等揃え”、“両端揃え”）設定は、左寄せに変換される。

・P-touch で設定した改行時の行間設定有効範囲は、０～２５５ドットである。

（P-touch Editor の行間設定は、マイナスの値を使用しないこと。また、本体の行幅に上限（約 21mm）があるため、P-touch Editor でそれより大きな行間設定を行っても本体には反映されない。）

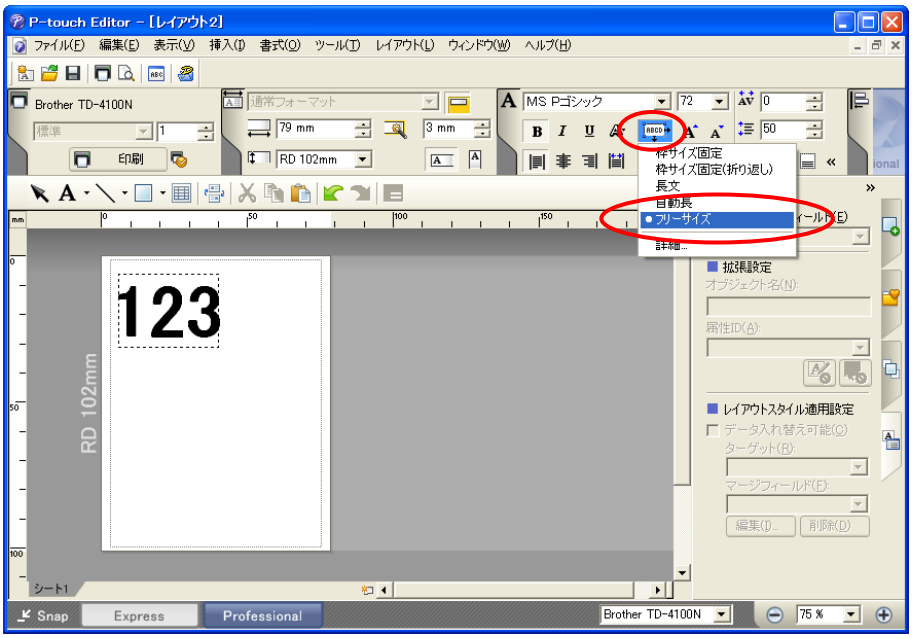
＜ P-touch Editor での行間設定方法＞



・P-touch Editor で設定した文字装飾は、オブジェクト内で全て同じ装飾になる。
・P-touch Editor で設定したテキストオプションが、「長文」の時、垂直配置は、常に上寄せの位置に配置される。
・P-touch Editor でテキストオプションの「長文」を指定し、かつ無定長ロールを使用した場合、テキストにあわせて印刷長が伸びる。
・P-touch Editor で設定したテキストオプションの「テキストを折り返す」は、オブジェクトサイズが固定で文字は縮小されます。
（「テキストを折り返す」はもともと長い文章を挿入するために追加されたモードであり、「テキストを折り返す」機能をなくしてしまうと極端に文字サイズが小さくなる可能性があるため、P-touch Editor では用紙が固定サイズまたは定長が設定されている場合は「枠サイズ固定」、用紙にオート長が設定されているときは「自動長」を推奨する。）

1.「縮小して全体を表示」：テキストオブジェクトサイズが固定になり、テキストサイズがテキスト長さにより変更される。
2.「はみ出した部分はクリップする」：テキストオブジェクトサイズ及びテキストサイズが固定になる。テキストが長い場合は、印刷されない。
3.「長文」：テキストオブジェクト幅とテキストサイズは固定である。テキストが長い場合には、自動的に改行し垂直方向にのびる。.
4.「自動長」：テキストオブジェクト高さとテキストサイズは、固定である。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびる。
5.「フリーサイズ」：テキストサイズが固定である。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびる。改行されたら垂直方向にのびる。

＜テキストオプション（文字の制御）の設定方法＞



赤丸で囲んだボタンをクリックすることで、選択肢がドロップダウンで表示され、その中から選択する。

■バーコード関係

●バーコード全体

・本体の対応していないバーコードを含むテンプレートを転送しようとすると、転送時にエラーになり本体に転送できない。
本体が対応しているバーコードは、以下のとおりである。
１次元バーコード
CODE39, ITF(I-2/5), EAN-8, EAN-13, UPC-A, UPC-E, CODABAR, CODE128, GS1-128(UCC/EAN-128), RSS
２次元バーコード
PDF417,QR Code, Data Matrix,MaxiCode

・バーコードオブジェクトにデータを流し込んだとき、規格外の文字があった場合は、そのバーコードオブジェクトは印刷されない。

・バーコードの大きさは、P-touch Editor からの印刷結果とは異なる場合がある。
CODE128/GS1-128(UCC/EAN-128)は、大きめに印刷されやすいので、P-touch Editor でテンプレートを作成時に、余白を多めに入れることを推奨する。

・P-touch Editor で作成時のテンプレートより、データの流し込みで横幅の長いバーコードが出来た場合、途中で印刷が切れることがある。

・バーコードデータの直前、直後に改行を入れてはいけない。バーコードデータの一部とみなされ、改行コードも含んだバーコードが作成される、またはバーコード規格外のデータが入力されたとして、バーコード部分の印刷が空白になる。

・バーコードデータの直後は、区切り記号、もしくは印刷開始文字列をいれること。

● １次元バーコード

・横幅が、２２．５ｃｍを超えるバーコードは、印刷されない。

・９９ｍｍ以上の高さの１次元バーコードを作成しても９９ｍｍに変換される。

・規格毎の入力文字数は以下の通りである。

CODE39　：　１～５０文字（両サイドの＊は含まれない）

ITF(I-2/5)　：　１～６４文字

EAN-8　：　７文字

EAN-13　：　１２文字

UPC-A　：　１１文字

UPC-E　：　６文字

CODABAR　：　３～６４文字（先頭と終了はA、B、C、Dのいずれか）

CODE128　：　１～６４文字

GS1-128(UCC/EAN-128)：　１～６４文字

RSS-14　：　３～１５文字（先頭は“０１”）

RSS Limited　：　３～１５文字（先頭は“０１”　３桁目は“０”ｏｒ“１”）

RSS Expanded：　数字１～６４桁、英数字（※）１～４０文字

※　ＩＳＯ６４６で規定された印字可能文字

＜＜　数字、英文字、スペース、!、”、%、&、’、(、)、

*、+、,、-、.、/、:、;、<、=、>、?、_　＞＞

上記の範囲を超えて転送しようとすると、転送時にエラーになる。データの流し込みは、下限値に満たない場合は、印刷されない。上限値を超えた場合は、上限値までのデータを有効とする。ただし、６４文字を超えた場合は、印刷されない。

・P-touch Editor でバーの高さが極端に低いバーコードのテンプレートを作成すると、バーが印刷されないことがある。

●CODE39

・データ流し込み時、データの先頭と最終の＊は読み飛ばす。

●ITF(I-2/5)

・P-touch Editor で設定したベアラバー設定は無効である。

●QR Code

・P-touch Editor で設定した QR コードのバージョン設定は無効である。バージョン設定は、ＯＦＦにすること。
・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。
・QR コードバージョン設定コマンドにより設定された値が、範囲外の時、ＡＵＴＯに変換される。（MODEL1:0～14、MODEL2:0～40、マイクロ QR:0～4）

●PDF417

・P-touch Editor で設定したＰＤＦ４１７のエラー訂正レベルは､本体と一致しないため、P-touch Template での印刷時に、バーコードの大きさが変わることがある。
・P-touch Editor で設定したＰＤＦ４１７の幅で、中は小に変換される。
・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。

●Data Matrix

・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。
・P-touch Editor で設定したマクロ設定は無効である。

●MaxiCode

・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。データがオーバーした時、連結する。
・P-touch Editor で、国コードとサービスクラスを設定すると、指定文字に達しない時は前詰めになるが、本体は後ろ詰めになる。
(例)２を設定　→　P-touch Editor :「２００」　　本体 :「００２」

■イメージ関係

・P-touch Editor で、イメージが重なり合ったテンプレートを転送した場合、全てのイメージデータは重ねあわされる。（P-touch Editor は後で作ったものが上に表示される。）

■データベース関係

・データベース名は転送時にファイル名+シート名（エクセルの場合）で命名される。
ファイル名は１５バイト（１バイト文字で１５文字、２バイト文字で７文字）まで。

・最大転送データベース数は９９個である。ただし転送容量が５１２ＫＢを越えた時点で転送できなくなる。

・置き換え検索文字のセルに改行がある場合は、改行までの文字列が置き換え検索文字となる。

・置き換え検索文字は２５６文字まで有効。

・データベースの最大可能行数は６５０００行。
６５０００行を超えるデータベースを転送した場合は、６５０００行を超えた部分のデータが削除される。

・データベースの最大可能列数は１００列。
１００列を超えるデータベースを転送した場合は、１００列を超えた部分のデータは削除される。

・テンプレート印刷時に接続したデータベースが無い場合や、置き換え検索した結果、該当する文字列が見つからなかった場合は、エラーになる。

・テンプレート印刷時に接続した列がデータベースに無い場合、接続した列が無いオブジェクトについてはデフォルトになる。

■ナンバリング関係

・１つのテンプレート内で、有効なナンバリングオブジェクトの最大数は９個である。９個を超えたナンバリングオブジェクトはナンバリングされない。

・１つのオブジェクト内で、有効なナンバリング指定範囲数は１つである。

・ナンバリング最大桁数は１５桁である。１５桁以上の場合は下位１５桁がナンバリングされる。

・印刷後のナンバリングオブジェクトの内容はナンバリング指定範囲のみ保存する。

・ナンバリングオブジェクトの文字数より流し込んだ文字数が少ない場合、正常に印刷されない場合がある。

※ナンバリングオブジェクトとはナンバリング指定されたテキストオブジェクトまたはバーコードオブジェクトを意味する。

■その他

・最大転送テンプレート数は９９個である。ただし転送容量が５１２ＫＢを越えた時点で転送できなくなる。

・１テンプレートの最大オブジェクト数は５０個である。５１個以上は、本体に転送しようとしたときにエラーとなり転送できない。

・１テンプレート内のトータル行数の最大値は１０００行である。これを超えた場合は、

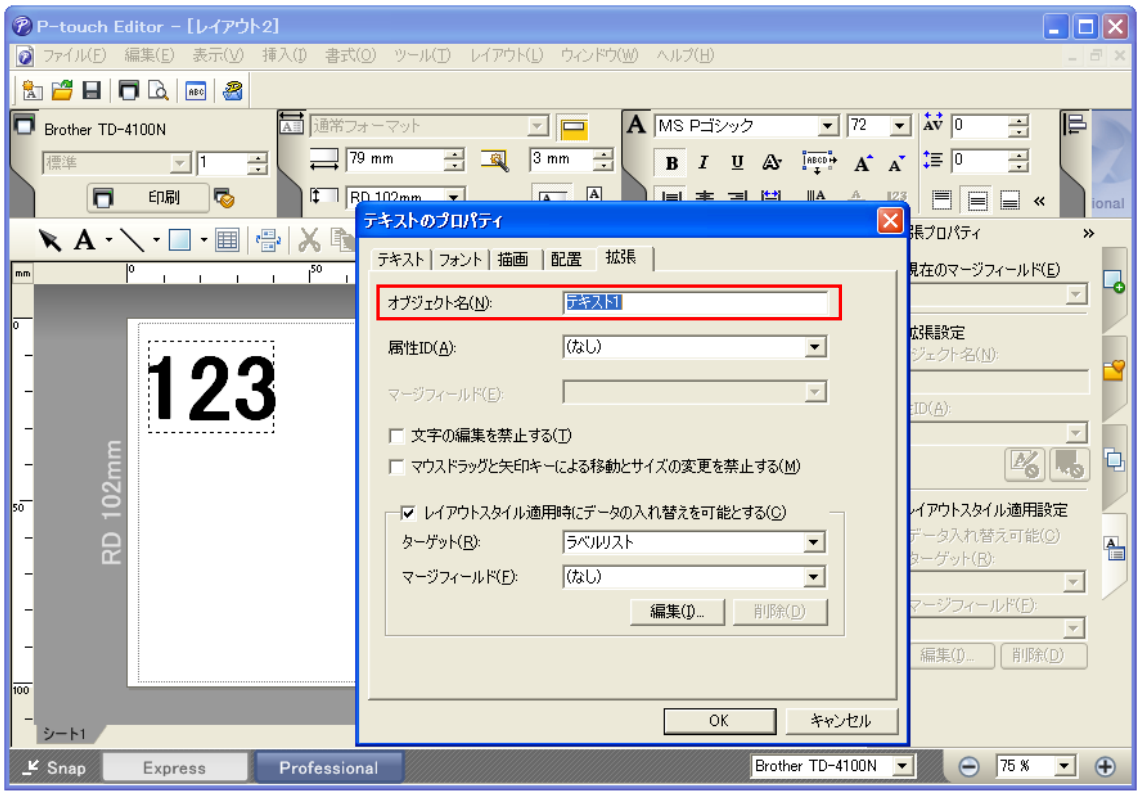
印刷時にエラーになる。

・印刷データの改行コード（0D0A、0D、0A）は読み捨てる。ただし、区切り記号や印刷開始文字列、改行コマンドなど、特別なデータ列として設定された場合はそれらに従う。

・オブジェクトの順番は、オブジェクト名の下位から４ケタ分の数字のみ有効として、順番が決定される。数字がない場合は、一番最後の順番になる。同じ番号の場合は、テキスト、１次元バーコード、２次元バーコードの優先順位で番号を決定し、オブジェクトも同じ場合は、その中で最初に作ったものを先の順番にする。順番を示す数字をオブジェクト名の後ろに入れることを推奨する。

（P-touch Editor でオブジェクト名を設定するには、テキストおよびバーコード各オブジェクトのプロパティを表示し、拡張タブのオブジェクト名で名前を設定する。）

＜オブジェクト名の設定箇所＞



・印刷データを流し込む場合は、コマンドモードを、P-touch Template モードにすること。

・本体にテンプレートを転送すると、動的コマンドで設定した値は、全て初期化される。

・スプリットラベルには、対応していない。

・P-touh Editor から印刷した後、コマンドモードは、ラスターモードになる。テンプレート印刷を行うには、本体設定ツールで P-touch Template モードにするか、直前のモードが、本体設定ツールで P-touch Template モードにしていたならば、電源 OFF/ON すれば、P-touch Template モードに戻る。

注意事項

静的コマンドは、ラスターモードでしか有効にならない。

【例：テンプレート選択番号を、動的に１０番に変更したい場合。】

１）ラスターモードに切り替え。

ＥＳＣ　ｉ　ａ　０１ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　６１ｈ　０１ｈ）

２）テンプレート番号を１０番にする。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　２　０１ｈ　００ｈ　０Ａｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　6Ｅｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０Ａｈ）

３）動的に、P-touch Template モードにする。

ＥＳＣ　ｉ　ａ　０３ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　６１ｈ　０３ｈ）

印刷が開始されない場合（よくある主な原因）

１）通信設定があっていない。

２）コマンドモードが、P-touch Template モードになっていない。

３）印刷開始トリガの条件を満たしていない。

印刷開始トリガは、下記の３つの種類があるが、この選択があっていない。

①設定されている文字列受信時

②全てのオブジェクトが埋まったとき

③設定されている文字数受信時

上記設定があっていないときは、本体設定ツールを使って設定をする。

付録：仕様

BROTHER TD-4000/4100N P-touch Template 仕様

印字	印刷モード		Raster (PTCBP モード) **ESC/P モード** P-touch Template モード
	最大印字長		1 m
	解像度 (dpi)		300dpi × 300dpi
	テキスト	フォント	ビットマップフォント：ゴシック、ヘルシンキ アウトラインフォント:ゴシック、ヘルシンキ
		サイズ (ドット)	ビットマップフォント：16 x 16, 24 x 24, 32 x 32, (ドット) アウトラインフォント：33 - 400 ドット（22 サイズ）
		文字スタイル	なし、ボールド、イタリック、アウトライン、シャドウ、シャドウ＋アウトライン
		アンダーライン	オフ、オン
		文字幅	ー
		水平位置	左寄せ、中寄せ、右寄せ
		回転	垂直、水平
	バーコード	規格 *1	**CODE39**, ITF(I-2/5), EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E, CODABAR, CODE128, GS1-128(UCC/EAN-128), QR Code, PDF417, Data Matrix, MaxiCode, RSS-14(Standard, Truncated, Stacked, Stacked Omni), RSS-Limited, RSS Expanded(Standard, Stacked)
		幅	大、中、小、極小
転送	RS	ボーレート (bps)	115.2K,57.6K,**9600**
		ビジー	**DTR**,Xon/Xoff
		ビット長	**8**,7
		パリティー	**None**,ODD,EVEN
		ストップビット	１ビット

太字でアンダーラインの項目は、初期値です。

*1 BarStar Pro エンコードライブラリ(DataMatrix, MaxiCode, PDF417, RSS)の著作権は、アイニックス株式会社にあります。
QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
QR コード生成プログラム Copyright © 2008 DENSO WAVE INCORPORATED

©Ｃｏｐｙｒｉｇｈｔ ２０１０ ＢＲＯＴＨＥＲ ＩＮＤＵＳＴＲＩＥＳ，ＬＴＤ.

P-touch Template command

Version 1.30版

機種名　TD-4000/4100N

＜作成＞　ブラザー工業株式会社

【目次】

制御コード一覧 4

P-touch Template モードで、設定、取得可能なコマンド 4

ラスターモードで、設定、取得可能なコマンド 5

P-touch Template とは 6

静的コマンド、動的コマンド 6

印刷が開始されない場合（よくある主な原因） 6

制御コマンド詳細 7

ＥＳＣ　ｉａ　コマンドモード設定 29

ＥＳＣ　ｉＸＴ２　印刷開始トリガー選択の設定 30

ＥＳＣ　ｉＸＰ２　印刷開始コマンド文字列設定 31

ＥＳＣ　ｉＸｒ２　印刷開始受信文字数設定 32

ＥＳＣ　ｉＸＤ２　区切り記号指定 33

ＥＳＣ　ｉＸａ２　読み捨て文字列設定 34

ＥＳＣ　ｉＸｉ２　コマンドモード設定 35

ＥＳＣ　ｉＸｎ２ テンプレート選択設定 36
ＥＳＣ　ｉＸｆ２ プレフィックス文字の変更 37
ＥＳＣ　ｉＸｃ２　各種本体設定（カットオプション） 38
ＥＳＣ　ｉＸｙ２　各種本体設定（カットオプションのカット枚数設定） 39
ＥＳＣ　ｉＸｊ２ 国際文字設定 40
ＥＳＣ　ｉＸＲ２　改行コマンド文字列設定 41
ＥＳＣ　ｉＸＣ２　　コピー印刷枚数設定 42
ＥＳＣ　ｉＸＮ２　　ナンバリング印刷枚数設定 43
ＥＳＣ　ｉＸＦ２　ＦＮＣ１置換設定 44
ＥＳＣ　ｉＸｑ２　印刷オプション設定 45
ＥＳＣ　ｉＸＴ１　印刷開始トリガー選択項目取得 46
ＥＳＣ　ｉＸＰ１　印刷開始コマンド設定文字列取得 47
ＥＳＣ　ｉＸｒ１　　印刷開始受信文字数取得 48
ＥＳＣ　ｉＸＤ１　区切り記号取得 49
ＥＳＣ　ｉＸａ１　読み捨て設定文字列取得 50
ＥＳＣ　ｉＸｉ１　コマンドモード設定値取得 51
ＥＳＣ　ｉＸｎ１ テンプレート選択番号取得 52
ＥＳＣ　ｉＸｃ１　各種本体設定（カットオプション）の取得 53
ＥＳＣ　ｉＸｙ１　各種本体設定（カットオプションのカット枚数設定）取得 54
ＥＳＣ　ｉＸｊ１ 国際文字設定値取得 55
ＥＳＣ　ｉＸｆ１ プレフィックス文字の取得 56
ＥＳＣ　ｉＸＲ１　改行コマンド設定文字列取得 57
ＥＳＣ　ｉＸＣ１　　コピー印刷枚数設定値取得 58
ＥＳＣ　ｉＸＮ１　　ナンバリング印刷枚数設定値取得 59
ＥＳＣ　ｉＸＦ１　ＦＮＣ１置換設定取得 60
ＥＳＣ　ｉＸｑ１　　印刷オプション設定値取得 61
文字コード表 62

制御コード一覧

P-touch Template モードで、設定、取得可能なコマンド

^PT	5E 50 54	動的	印刷開始トリガー選択
^PS	5E 50 53	動的	印刷開始コマンド文字列設定
^PC	5E 50 43	動的	印刷開始受信文字数設定
^SS	5E 53 53	動的	区切り記号指定
^TS	5E 54 53	動的	テンプレート選択
^CO	5E 43 4F	動的	各種本体設定（カットオプション ON/OFF）
^LS	5E 4C 53	動的	改行時の行間設定
^CC	5E 43 43	動的	プレフィックス文字変更
^RC	5E 52 43	動的	改行コマンド文字列設定
^CN	5E 43 4E	動的	コピー印刷枚数設定
^NN	5E 4E 4E	動的	ナンバリング印刷枚数設定
^ID	5E 49 44		テンプレートデータ初期化
^QS	5E 51 53	動的	印刷オプション設定
^QV	5E 51 56	動的	QR コードバージョン設定
^FC	5E 46 43	動的	FNC1 置換設定
^II	5E 49 49		初期化
^OP	5E 4F 50		本体動作実行（フィード／カット）
^SR	5E 53 52		ステータスリクエスト
^VR	5E 56 52		バージョン情報取得
^CR	5E 43 52		オブジェクト内での改行
^OS	5E 4F 53		オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）
^ON	5E 4F 4E		オブジェクト選択設定（オブジェクト名）
^DI	5E 44 49		オブジェクト直接挿入
ESC ia	1B 69 61	動的	コマンドモード設定

※上記コマンドは、P-touch Template モードにて、使用すること。
ラスターモードおよび、ESC/P モードでは使用できない。（ESC ia を除く）

ラスターモードで、設定、取得可能なコマンド

ESC iXT2	1B 69 58 54 32	静的	印刷開始トリガー選択
ESC iXP2	1B 69 58 50 32	静的	印刷開始コマンド文字列設定
ESC iXr2	1B 69 58 72 32	静的	印刷開始受信文字数設定
ESC iXD2	1B 69 58 44 32	静的	区切り記号指定
ESC iXa2	1B 69 58 61 32	静的	読み捨て文字列設定
ESC iXi2	1B 69 58 69 32	静的	コマンドモード設定
ESC iXn2	1B 69 58 6E 32	静的	テンプレート選択
ESC iXf2	1B 69 58 66 32	静的	プレフィックス文字変更
ESC iXc2	1B 69 58 63 32	静的	各種本体設定（カットオプション ON/OFF）
ESC iXy2	1B 69 58 79 32	静的	各種本体設定（カットオプション　一定枚数毎のカット枚数設定）
ESC iXj2	1B 69 58 6A 32	静的	国際文字設定
ESC iXR2	1B 69 58 52 32	静的	改行コマンド文字列設定
ESC iXC2	1B 69 58 43 32	静的	コピー印刷枚数設定
ESC iXN2	1B 69 58 4E 32	静的	ナンバリング印刷枚数設定
ESC iXF2	1B 69 58 46 32	静的	FNC1 置換設定
ESC iXq2	1B 69 58 71 32	静的	印刷オプション設定
ESC iXT1	1B 69 58 54 31		印刷開始トリガー選択項目取得
ESC iXP1	1B 69 58 50 31		印刷開始コマンド設定文字列取得
ESC iXr1	1B 69 58 72 31		印刷開始受信文字数取得
ESC iXD1	1B 69 58 44 31		区切り記号取得
ESC iXa1	1B 69 58 61 31		読み捨て文字列取得
ESC iXi1	1B 69 58 69 31		コマンドモード取得
ESC iXn1	1B 69 58 6E 31		テンプレート選択番号取得
ESC iXc1	1B 69 58 63 31		各種本体設定（カットオプション ON/OFF）取得
ESC iXy1	1B 69 58 79 31		各種本体設定（カットオプション　一定枚数毎のカット枚数設定）取得
ESC iXj1	1B 69 58 6A 31		国際文字設定値取得
ESC iXf1	1B 69 58 66 31		プレフィックス設定文字取得
ESC iXR1	1B 69 58 52 31		改行コマンド設定文字列取得
ESC iXC1	1B 69 58 43 31		コピー印刷枚数設定値取得
ESC iXN1	1B 69 58 4E 31		ナンバリング印刷枚数設定値取得
ESC iXF1	1B 69 58 46 31		FNC1 置換設定の取得
ESC iXq1	1B 69 58 71 31		印刷オプション設定値取得

※上記コマンドは、ラスターモードにて、使用すること。
ESC/P モードおよび、P-touch Template モードでは使用できない。

P-touch Template とは

P-touch Editor から、予め本体に転送してあるテンプレートに対して、計測器、秤、バーコードリーダ等のホストから、データを流し込み、印刷をするものである。

P-touch Template のコマンドは、プレフィックス文字＋２文字の文字列の構成になっている。プレフィックス文字を転送すると本体は、P-touch Template のコマンド解析を開始し、以下２文字の文字列がコマンドに該当すれば、指定の処理を行う。

静的コマンド、動的コマンド

静的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、保存され記憶される。

動的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、一時的に保存され、電源をＯＦＦするまで有効になる。

印刷が開始されない場合（よくある主な原因）

１）通信設定があっていない。

２）コマンドモードが、P-touch Template モードになっていない。

３）印刷開始トリガーの条件を満たしていない。

印刷開始トリガーは、下記の３つの種類があるが、この選択があっていない。

①設定されている文字列受信時

②全てのオブジェクトが埋まったとき

③設定されている文字数受信時

上記設定があっていないときは、本体設定ツールを使って設定をする。

制御コマンド詳細

＾ＰＴ 印刷開始トリガー選択の設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｐ　Ｔ　ｎ

【１０進】　９４　８０　８４　ｎｄ

【１６進】　５Ｅ　５０　５４　ｎｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　１≦ｎ≦３

【解説】

・印刷開始トリガーの種類を選択する。

ｎ＝１　：設定されている文字列受信時（デフォルト）

ｎ＝２　：全てのオブジェクトが埋まったとき
（最後のデータ後の区切り記号で印刷）

ｎ＝３　：設定されている文字数受信時
（区切り記号は、含まれない）

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・ｎが１～３以外の値の場合は無効になる。

【例】

・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

＾　Ｐ　Ｔ　２（5Eh　５０ｈ　５４ｈ　３２ｈ）

＾ＰＳ 印刷開始コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｐ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	９４	８０	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	５Ｅ	５０	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２

０≦ｎ２≦９

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・印刷開始コマンドの文字列を設定する。

（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は“＾ＦＦ”である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に変えたい場合。

設定する文字列（ｄａｔａ）は“START”と、5文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝５である。コマンドは以下のようになる。

＾　Ｐ　Ｓ　０　５　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ

（５Ｅｈ　５０ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３５ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）

＾ＰＣ 印刷開始受信文字数設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｐ	Ｃ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	８０	６７	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	５Ｅ	５０	４３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦９
　　０≦ｎ２≦９
　　０≦ｎ３≦９

【解説】

・印刷開始受信文字数を設定する。

（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　　：印刷開始受信文字数
（１～９９９文字）

・印刷開始受信文字数のデフォルト値は１０である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

・全角は２バイトで１文字、半角は１バイトで１文字扱いとする。

【例】

・印刷受信文字数を１００文字に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｐ　Ｃ　１　０　０（５Ｅｈ　５０ｈ　４３ｈ　３１ｈ　３０ｈ　３０ｈ）

^ＳＳ 区切り記号指定

【ＡＳＣＩＩ】	^	Ｓ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	９４	８３	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	５Ｅ	５３	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】
０≦ｎ１≦２
０≦ｎ２≦９
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。

・区切り記号の文字列を設定する。

（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０）

ｄａｔａ　　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・区切り記号のデフォルト文字列は“09ｈ(TAB コード)”である。

・印刷データ内にでてくることがない文字列を設定すること。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・区切り記号を“,”（0x2C）に変えたい場合。

文字列の長さは１文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝１となり、文字列（ｄａｔａｈ）は“,”（2Cｈ）で、コマンドは以下のようになる。

^　Ｓ　Ｓ　０　１　,（５Ｅｈ　５３ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３１ｈ　２Ｃｈ）

＾ＴＳ テンプレート選択設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｔ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	８４	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	５Ｅ	５４	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎ１：０（固定）

０≦ｎ２≦９

０≦ｎ３≦９

【解説】

・本体で選択しているテンプレートを指定番号にする。

（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：テンプレート番号（１～９９）

・本体選択番号のデフォルト値は、１である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・設定可能なテンプレート番号は、１～９９である。それ以外の数値を設定しようとした場合または本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になる。

【例】

・選択テンプレート番号を９９にする場合。

ｎ２＝９、ｎ３＝９になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｔ　Ｓ　０　９　９（５Ｅｈ　５４ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３９ｈ　３９ｈ）

＾ＣＯ 各種本体設定（カットオプション）

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｃ	Ｏ	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｎ４
【１０進】	９４	６７	７９	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｎｄ４
【１６進】	５Ｅ	４３	４Ｆ	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｎｈ４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦１
　　０≦ｎ２≦９
　　０≦ｎ３≦９
　　０≦ｎ４≦１

【解説】

・各種カット項目を設定する。

ｎ１	：オートカット設定 （ON：１（デフォルト） OFF：０）
（ｎ２＊１０）＋ｎ３	：オートカット枚数設定（１～９９） （デフォルト値：１）
ｎ４	：カットアットエンド設定 （ON：１（デフォルト）OFF：０）

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・オートカット枚数設定は、１～９９枚である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。

【例】

・２枚毎にカットしたい場合。

オートカット設定をＯＮ、オートカット枚数を２枚にするため、ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝2になる。コマンドは以下のようになる。

＾　Ｃ　Ｏ　１　０　２　０

（５Ｅｈ　４３ｈ　４Ｆｈ　３１ｈ　３０ｈ　３２ｈ　３０ｈ）

＾ＬＳ 改行時の行間設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｌ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	７６	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	５Ｅ	４Ｃ	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２
　　０≦ｎ２≦９
　　０≦ｎ３≦９

【解説】

・改行時の行間のドット数を設定する。
　（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：行間ドット数（０～２５５）
・改行時の行間ドット数のデフォルト値は、P-touch Editor でテンプレートを作成したときに決められるドット数である。
・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・行間のドット数は、０～２５５ドットである。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。
　１ドット　＝　１／３００インチ
　１ドット　≒　０．０８５ｍｍ

【例】

・行間を１０ドットにする場合。
　＾　Ｌ　Ｓ　０　１　０（５Ｅｈ　４Ｃｈ　５３ｈ　３０ｈ　３１ｈ　３０ｈ）

＾ＣＣ プレフィックス文字の変更

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｃ　Ｃ　ｎ
【１０進】　９４　６７　６７　ｎｄ
【１６進】　５Ｅ　４３　４３　ｎｈ
【パラメーター】　00ｈ≦ｎｈ≦FFｈ

【解説】
・プレフィックス文字コードを変更する。
　ｎ　：文字コード
・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“＾”である。
・このコマンドは、動的コマンドである。
【例】
・プレフィックス文字を、“＾”から“＿”に変更したい場合は、下記のようにコマンドを送る。
　＾　Ｃ　Ｃ　5Fｈ（５Ｅｈ　４３ｈ　４３ｈ　５Ｆｈ）
　　（“＿”）
　ただしこれ以降、電源をＯＮ／ＯＦＦしないとプレフィックス文字は“＿”に変更されたままのため、たとえば初期化コマンドを使用するときは、＾ＩＩではなく、＿ＩＩになる。

＾ＲＣ 改行コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｒ　Ｃ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ

【１０進】　９４　８２　６７　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ

【１６進】　５Ｅ　５２　４３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２

０≦ｎ２≦９

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・改行コマンドの文字列を設定する。

（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・改行コマンドのデフォルト文字列は“＾ＣＲ”である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・改行コマンド文字列を“0Dh 0Ah”に変えたい場合。

設定する文字列（ｄａｔａ）は、２文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝２

である。コマンドは以下のようになる。

＾　Ｒ　Ｃ　０　２　０Ｄｈ　０Ａｈ

（５Ｅｈ　５２ｈ　４３ｈ　３０ｈ　３２ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ）

＾ＣＮ コピー印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｃ	Ｎ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	６７	７８	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	５Ｅ	４３	４Ｅ	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦９
　　０≦ｎ２≦９
　　０≦ｎ３≦９

【解説】

・コピー印刷枚数を設定する。

（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　　：コピー印刷枚数（バイト）
（１～９９９）

・コピー印刷枚数のデフォルト値は１である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・印刷が終了すると、このコマンドで設定した枚数は、本体に設定されている枚数（静的値）に戻る。

【例】

・コピー印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｃ　Ｎ　１　０　０（５Ｅｈ　４３ｈ　４Ｅｈ　３１ｈ　３０ｈ　３０ｈ）

＾ＮＮ ナンバリング印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｎ　Ｎ　ｎ１　ｎ２　ｎ３

【１０進】　９４　７８　７８　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３

【１６進】　５Ｅ　４Ｅ　４Ｅ　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦９

０≦ｎ２≦９

０≦ｎ３≦９

【解説】

・ナンバリング印刷枚数を設定する。

（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：ナンバリング印刷枚数（バイト）（１～９９９）

・ナンバリング印刷枚数のデフォルト値は１である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・印刷が終了すると、このコマンドで設定した枚数は、本体に設定されている枚数（静的値）に戻る。

【例】

・ナンバリング印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｎ　Ｎ　１　０　０（５Ｅｈ　４Ｅｈ　４Ｅｈ　３１ｈ　３０ｈ　３０ｈ）

^ＩＤ テンプレートデータ初期化

【ＡＳＣＩＩ】　^　Ｉ　Ｄ

【１０進】　９４　７３　６８

【１６進】　５Ｅ　４９　４４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　なし

【解説】

選択しているテンプレートのデータをテンプレート転送時の状態にする

＾ＱＳ 印刷オプション設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｑ　Ｓ　ｎ

【１０進】　９４　８１　８３　ｎｄ

【１６進】　５Ｅ　５１　５３　ｎｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎ：０、１

【解説】

・印刷オプションを選択する。

ｎ＝０　：　印字速度優先

ｎ＝１　：　印字品質優先

・印刷オプションのデフォルト値は０（印字速度優先）である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【例】

・印刷オプションを印字品質優先にする場合。

ｎ＝１になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｑ　Ｓ　１

（５Ｅｈ　５１ｈ　５３ｈ　３１ｈ）

＾ＱＶ ＱＲコードバージョン設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｑ	Ｖ	ｎ１	ｎ２
【１０進】	９４	８１	８６	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	５Ｅ	５１	５６	ｎｈ１	ｎｈ２
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】	０≦ｎ１≦９				
	０≦ｎ２≦９				

【解説】

・ＱＲコードバージョンを設定する。

（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：　バージョン値（０～４０）

・ＱＲコードバージョンのデフォルト値は０である。

・設定可能値（０～４０）以外を設定しようとした時は、コマンドが無効になる。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【例】

・バージョンを１０に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｑ　Ｖ　１　０　（５Ｅｈ　５１ｈ　５６ｈ　３１ｈ　３０ｈ）

＾ＦＣ ＦＮＣ１置換設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｆ　Ｃ　ｎ

【１０進】　９４　７０　６７　ｎｄ

【１６進】　５Ｅ　４６　４３　ｎｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ≦１

【解説】

・バーコード規格ＧＳ１－１２８(ＵＣＣ／ＥＡＮ１２８)などに含まれるＧＳコードを、ＦＮＣ１コードに置き換える機能のＯＮ／ＯＦＦを設定する。

ｎ　：ＦＮＣ１置換設定

（ON：１　OFF：０（デフォルト））

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・ｎが０、１以外の値の場合は無効になる。

【例】

・ＦＮＣ１置換を無効にしたい場合。

ＦＮＣ１置換を無効にするため、ｎ＝０になる。コマンドは以下のようになる。

＾　Ｆ　Ｃ　０

（５Ｅｈ　４６ｈ　４３ｈ　３０ｈ）

^ＩＩ 初期化

【ＡＳＣＩＩ】　^　Ｉ　Ｉ

【１０進】　９４　７３　７３

【１６進】　５Ｅ　４９　４９

【パラメーター】　なし

【解説】

・動的設定値を全て本体設定値に戻す。

１）印刷開始トリガーの選択項目

２）印刷開始コマンドの文字列

３）印刷開始受信文字数

４）区切り記号

５）テンプレート選択番号

６）各種本体設定（カットオプション）

７）改行量

８）プレフィックス文字

９）コピー印刷枚数設定

１０）印刷オプション設定

１１）ＱＲコードバージョン設定

１２）改行コマンド文字設定

１３）ＦＮＣ１置換設定

＾ＯＰ 本体動作実行（フィード／カット）

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｏ　Ｐ　ｎ

【１０進】　９４　７９　８０　ｎｄ

【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　５０　ｎｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　１≦ｎ≦３

【解説】

・本体のフィードまたはカット動作を実行させる。

ｎ ＝ １　：約１インチ搬送する（無定長ロール用）。

ｎ ＝ ２　：１枚送りする（ダイカットラベル用）。

ｎ ＝ ３　：カットする。

【備考】

・ｎが１～３以外の値が設定された場合は、無効となる。

【例】

・本体をカット動作させたいとき。

＾　Ｏ　Ｐ　３（５Ｅｈ　４Ｆｈ　５０ｈ　３３ｈ）

^ＳＲ ステータスリクエスト

【ＡＳＣＩＩ】　^　Ｓ　Ｒ

【１０進】　９４　８３　８２

【１６進】　５Ｅ　５３　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・プリンターステータスが返信される。

プリンターステータスは３２バイトで構成される。

序数	ｵﾌｾｯﾄ	ｻｲｽﾞ	名称	値/参照
1	0	1	ヘッドマーク	80 Hex 固定
2	1	1	サイズ	20 Hex 固定
3	2	1	「ブラザー」コード	'B' Char（42 Hex）固定
4	3	1	シリーズコード	'5' Char（35 Hex）固定
5	4	1	機種コード	TD-4000 : '1' Char（31 Hex）固定 TD-4100N : '2' Char（32 Hex）固定
6	5	1	国別コード	'0' Char（30 Hex）固定
7	6	1	本体情報	00 Hex 固定
8	7	1	予約	00 Hex 固定
9	8	1	エラー情報１	下記参照
10	9	1	エラー情報２	下記参照
11	10	1	メディア幅	
12	11	1	メディア種類	下記参照
13	12	1	色数	00 Hex 固定
14	13	1	メディア長（上位バイト）	
15	14	1	メディアセンサ値	
16	15	1	モード	00 Hex 固定
17	16	1	濃度	00 Hex 固定
18	17	1	メディア長（下位バイト）	
19	18	1	ステータス種類	下記参照
20	19	1	フェーズ種類	00 Hex 固定
21	20	1	フェーズ番号上位バイト	00 Hex 固定
22	21	1	フェーズ番号下位バイト	00 Hex 固定
23	22	1	通知番号	未使用
24	23	1	拡張部バイト数	00 Hex 固定
25	24	8	予約	00 Hex 固定

エラー情報１

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	メディア無しエラー
Bit 1	0x02	メディア終了エラー
Bit 2	0x04	カッタージャムエラー
Bit 3	0x08	未使用
Bit 4	0x10	本体使用中
Bit 5	0x20	電源オフ
Bit 6	0x40	未使用
Bit 7	0x80	ファンモータエラー

エラー情報２

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	メディア交換エラー
Bit 1	0x02	展開バッファーフルエラー
Bit 2	0x04	通信エラー
Bit 3	0x08	イメージ発生エラー
Bit 4	0x10	カバーオープンエラー
Bit 5	0x20	未使用
Bit 6	0x40	先端検出エラー
Bit 7	0x80	システムエラー

メディア種類

メディア種類	値	備考
長尺テープ	4A Hex	
ダイカットテープ	4B Hex	

ステータス種類

ステータス種類	値
ステータスリクエストへの返信	00 Hex
（未使用）	01 Hex
エラー発生	02 Hex
（未使用）	03 Hex ～ FF Hex

＾Ｖ Ｒ バージョン情報取得

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｖ　Ｒ

【１０進】　９４　８６　８２

【１６進】　５Ｅ　５６　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・本体のバージョン情報を１６文字の文字列で取得する。

＾ＣＲ オブジェクト内での改行

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｃ　Ｒ

【１０進】　９４　６７　８２

【１６進】　５Ｅ　４３　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・テキストオブジェクトで次の行に改行する。

・改行コマンド文字列を変更しても有効である。

【例】

・３行印刷させたい場合。

１　＾　Ｃ　Ｒ　２　＾　Ｃ　Ｒ　３　＾　Ｆ　Ｆ

（３１ｈ　５Ｅｈ　４３ｈ　５２ｈ　３２ｈ　５Ｅｈ　４３ｈ　５２ｈ　３３ｈ

５Ｅｈ　４６ｈ　４６ｈ）

印刷結果

1
2
3

^ＯＳ オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）

【ＡＳＣＩＩ】　^　Ｏ　Ｓ　ｎ１　ｎ２
【１０進】　９４　７９　８３　ｎｄ１　ｎｄ２
【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　５３　ｎｈ１　ｎｈ２
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦５
　　０≦ｎ２≦９

【解説】

・オブジェクト番号から対象オブジェクトを選択する。
　（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：オブジェクト番号（１～５０）

【備考】

・設定可能なオブジェクト番号は、１～50 である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。
・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用する。

【例】

・３３オブジェクト目を選択する場合。
　^　Ｏ　Ｓ　３　３（５Ｅｈ　４Ｆｈ　５３ｈ　３３ｈ　３３ｈ）

^ＯＮ オブジェクト選択設定（オブジェクト名）

【ＡＳＣＩＩ】　^　Ｏ　Ｎ　ｄａｔａ　００
【１０進】　９４　７９　７８　ｄａｔａｄ　００
【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　４Ｅ　ｄａｔａｈ　００
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　なし

【解説】

・オブジェクト名から対象オブジェクトを選択する。
　ｄａｔａ　：　文字列（オブジェクト名）

【備考】

・設定可能な文字列の最大長さは、２０文字である。それ以上の長さを指定した時は、コマンドが無効になる。また、文字列がない時も、コマンドが無効になる。
・文字列の後ろには、００ｈをつけること。文字列の終了を意味する。
・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用する。

【例】

・オブジェクト名が“TEXT1”のオブジェクトを選択する場合。
　^　Ｏ　Ｎ　Ｔ　Ｅ　Ｘ　Ｔ　１　００ｈ
　（５Ｅｈ　４Ｆｈ　４Ｅｈ　５４ｈ　４５ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３１ｈ　００ｈ）

＾ＤＩ オブジェクト直接挿入

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｄ　Ｉ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ

【１０進】　９４　６８　７３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ

【１６進】　５Ｅ　４４　４９　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　00ｈ≦ｎｈ１≦FFｈ

00ｈ≦ｎｈ２≦FEｈ

【解説】

・選択されているテンプレートの選択されているオブジェクトに指定文字数分、文字列を挿入する。（途中に印刷コマンド、区切り記号がきても、指定文字数内ならデータとして扱う）

（ｎｈ２＊２５６）＋ｎｈ１　：指定文字数（バイト）

ｄａｔａ　：文字列

【例】

・Ａが印刷開始文字列に設定されていて、印刷開始トリガーを印刷開始文字列に設定してある場合、手軽にＡを印刷したい場合に、下記のコマンドで印刷を実行する。

＾　Ｄ　Ｉ　０３ｈ　００ｈ　１　Ａ　２　Ａ

（５Ｅｈ　４４ｈ　４９ｈ　０３ｈ　００ｈ　３１ｈ　４１ｈ　３２ｈ　４１ｈ）

印刷結果

１Ａ２

ＥＳＣ　ｉａ　コマンドモード設定

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　ａ　ｎ

【１０進】　２７　１０５　９７　ｎｄ

【１６進】　１Ｂ　６９　６１　ｎｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ＝00ｈ 01ｈ 03ｈ 30ｈ 31ｈ 33ｈ

【解説】

・モードの切り替えをする。

ｎｈ＝00ｈ または 30ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード（デフォルト）

ｎｈ＝01ｈ または 31ｈ　：ラスターモード

ｎｈ＝03ｈ または 33ｈ　：P-touch Template モード

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとすると、ラスターモードになる。

ＥＳＣ　ｉＸＴ２　印刷開始トリガー選択の設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｔ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	８４	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５４	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１　＝　01ｈ（固定）

ｎｈ２　＝　00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ3≦02ｈ

【解説】

・印刷開始トリガーの種類を選択する。

ｎｈ３＝00ｈ　：設定されている文字列受信時（デフォルト）

ｎｈ３＝01ｈ　：全てのオブジェクトが埋まったとき

（最後のデータ後の区切り記号で印刷）

ｎｈ３＝02ｈ　：設定されている文字数受信時

（区切り記号は、含まれない）

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・ｎｈ3が00ｈ～02ｈ以外の値の場合は無効になる。

【例】

・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　２　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＰ２　印刷開始コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｐ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	８０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５０	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・印刷開始コマンドの文字列を設定する。

ｎｈ１＋(ｎｈ２＊２５６）：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）

ｄａｔａ　　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は“＾ＦＦ”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に変えたい場合。

設定する文字列（ｄａｔａ）は“START”と、5文字であるため、ｎｈ１＝05ｈ、ｎｈ２＝00ｈである。コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｐ　２　０５ｈ　００ｈ　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５０ｈ　３２ｈ　０５ｈ　００ｈ　５３ｈ　５４ｈ

４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｒ２　印刷開始受信文字数設定

【ＡＳＣＩＩ】ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３　ｎ４

【１０進】　２７　１０５　８８　１１４　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３　ｎｄ４

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　７２　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３　ｎｈ４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：02ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ

00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・印刷開始受信文字数を設定する。

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：印刷開始受信文字数（バイト）（１～９９９）

・印刷開始受信文字数のデフォルト値は１０である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・印刷受信文字数を１００文字に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７２ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＤ２　区切り記号指定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｄ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	６８	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４４	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。

・区切り記号の文字列を設定する。

ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）　：文字列の長さ（１～２０）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・区切り記号のデフォルト文字列は“09ｈ(TAB コード)”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・区切り記号を，（2Cｈ）に変えたい場合。

文字列の長さは１文字で、ｎｈ１＝01ｈ、ｎｈ２＝00ｈとなり、文字列（ｄａｔａｈ）は“,”（2Cｈ）で、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｄ　２　０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４４ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ）

ＥＳＣ　ｉＸａ２　読み捨て文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３　ｄａｔａ

【１０進】　２７　１０５　８８　９７　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３　ｄａｔａｄ

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　６１　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３　ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦15ｈ

ｎｈ２：00ｈ（固定）

ｎｈ３：01ｈ（固定）

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・読み捨て文字列を設定する。

ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）　：文字列の長さ（０～２０）＋１

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・読み捨て文字列を、“ＡＢＣＤ”にしたい場合。

文字列の長さは４文字で、ｎｈ１＝05ｈ、ｎｈ２＝00ｈとなり、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　２　０５ｈ　００ｈ　０１ｈ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６１ｈ　３２ｈ　０５ｈ　００ｈ　０１ｈ　４１ｈ

４２ｈ　４３ｈ　４４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｉ２　コマンドモード設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｉ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０５	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６９	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】
ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ３：00ｈ　01ｈ　03ｈ

【解説】

・モードの切り替えをする。

ｎｈ３＝00ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード（デフォルト）

ｎｈ３＝01ｈ　：ラスターモード

ｎｈ３＝03ｈ　：P-touch Template モード

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとすると、無効になる。

ＥＳＣ　ｉＸｎ２ テンプレート選択設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｎ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１１０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ｅ	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

01ｈ≦ｎｈ３≦63ｈ

【解説】

・本体で選択しているテンプレートを指定番号にする。

ｎ３　：テンプレート番号（１～９９）

・本体選択番号のデフォルト値は、１である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・設定可能なテンプレート番号は、１～９９である。それ以外の数値を設定しようとした場合または、本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になる。

【例】

・選択テンプレート番号を９９にする場合。

ｎｈ３＝63ｈになるため、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　２　０１ｈ　００ｈ　６３ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ｅｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　６３ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｆ２ プレフィックス文字の変更

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｆ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３

【１０進】　２７　１０５　８８　１０２　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　６６　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３

【パラメーター】　ｎｈ１：01h（固定）

ｎｈ２：00h（固定）

00h≦ｎｈ３≦FFh

【解説】

・プレフィックス文字コードを変更する。

ｎ３　：文字コード

・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“＾”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・プレフィックス文字を、“＿”に変更したい場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｆ　２　０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ（“＿”）

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６６ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｃ２　各種本体設定（カットオプション）

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｃ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	９９	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６３	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

ｎｈ３：00ｈ　01ｈ　08h 09h

【解説】

・各種カット項目を設定する。

ｎｈ３＝00ｈ　：カットなし

ｎｈ３＝01ｈ　：オートカットＯＮ

ｎｈ３＝08ｈ　：カットアットエンドＯＮ

ｎｈ３＝09ｈ　：オートカットＯＮ、カットアットエンドＯＮ

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・オートカットをＯＮに設定する場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｃ　２　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６３ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｙ２　各種本体設定（カットオプションのカット枚数設定）

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｙ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１２１	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７９	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

01ｈ≦ｎｈ３≦63ｈ

【解説】

・一定枚数毎のカット枚数の設定する。（オートカット設定がＯＮの場合、この設定値毎にカットを行う）

ｎｈ３　　：一定枚数毎のカット枚数（01ｈ～63ｈ）

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・オートカット枚数設定は、１～９９枚である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。

【例】

・５枚毎にカットしたい場合。（ただしオートカット設定がＯＮである必要がある）

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｙ　２　０１ｈ　００ｈ　０５ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７９ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０５ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｊ２　国際文字設定

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３

【１０進】　２７　１０５　８８　１０６　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　６Ａ　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ3≦0Dｈ、40ｈ

【解説】

・各国別の文字セットを選択し、ｎｈ３の値によりコード表の一部文字コードが切替わる。

ｎｈ３＝00ｈ　：ＵＳＡ

ｎｈ３＝01ｈ　：フランス

ｎｈ３＝02ｈ　：ドイツ

ｎｈ３＝03ｈ　：イギリス

ｎｈ３＝04ｈ　：デンマーク

ｎｈ３＝05ｈ　：スウェーデン

ｎｈ３＝06ｈ　：イタリア

ｎｈ３＝07ｈ　：スペイン

ｎｈ３＝08ｈ　：日本

ｎｈ３＝09ｈ　：ノルウェー

ｎｈ３＝0Aｈ　：デンマークⅡ

ｎｈ３＝0Bｈ　：スペインⅡ

ｎｈ３＝0Cｈ　：ラテンアメリカ

ｎｈ３＝0Dｈ　：韓国

ｎｈ３＝40ｈ　：リーガル

・切替わるコードは、以下の１２コードである。

23ｈ　24ｈ　40ｈ　5Bｈ　5Cｈ　5Dｈ　5Eｈ　60ｈ　7Bｈ　7Cｈ　7Dｈ　7Eｈ

（切り替わる文字に関しては、国際文字セット表参照のこと）

・初期設定は、ｎｈ３＝08ｈ（日本）。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・国際文字設定をＵＳＡに変える場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　２　０１ｈ　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ａｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＲ２　改行コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｒ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	８２	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５２	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・改行コマンドの文字列を設定する。

ｎｈ１＋(ｎｈ２＊２５６）：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）

ｄａｔａ　　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・改行コマンドのデフォルト文字列は“＾ＣＲ”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・改行コマンド文字列を“０Ｄｈ　０Ａｈ”に変えたい場合。

設定する文字列（ｄａｔａ）は、２文字であるため、ｎｈ１＝02ｈ、

ｎｈ２＝00ｈである。コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　２　０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５２ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＣ２　コピー印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３　ｎ４

【１０進】　２７　１０５　８８　６７　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３　ｎｄ４

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　４３　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３　ｎｈ４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：02ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ

00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・コピー印刷枚数を設定する。

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：コピー印刷枚数（バイト）（１～９９９）

・コピー印刷枚数のデフォルト値は１である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・コピー印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４３ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＮ２　ナンバリング印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｎ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３　ｎ４

【１０進】　２７　１０５　８８　７８　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３　ｎｄ４

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　４Ｅ　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３　ｎｈ４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：02ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ

00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・ナンバリング印刷枚数を設定する。

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：ナンバリング印刷枚数（バイト）（１～９９９）

・ナンバリング印刷枚数のデフォルト値は１である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・ナンバリング印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｎ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４Ｅｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＦ２　ＦＮＣ１置換設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｆ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	７０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４６	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ３：00ｈ 01ｈ

【解説】

・バーコード規格ＧＳ１－１２８(ＵＣＣ／ＥＡＮ１２８)などに含まれるＧＳコードを、ＦＮＣ１コードに置き換える機能のＯＮ／ＯＦＦを設定する。

ｎｈ３＝00h　：FNC１置換設定ＯＦＦ
ｎｈ３＝01h　：FNC１置換設定ＯＮ

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・ＦＮＣ１置換を無効にしたい場合。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｆ　２　０１ｈ　００ｈ　００ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４６ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｑ２　印刷オプション設定

【ＡＳＣＩＩ】ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｑ　２　ｎ１　ｎ２　ｎ３

【１０進】　２７　１０５　８８　１１３　５０　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　７１　３２　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

ｎｈ３：00ｈ、01ｈ

【解説】

・印刷オプションを選択する。

ｎｈ３＝００ｈ　：　印字速度優先

ｎｈ３＝０１ｈ　：　印字品質優先

・印刷オプションのデフォルト値は００ｈ（印字速度優先）である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・印刷オプションを印字品質優先にする場合。

ｎｈ３＝０１ｈになるため、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｑ　２　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７１ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＴ１　印刷開始トリガー選択項目取得

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　１　ｎ１　ｎ２

【１０進】　２７　１０５　８８　８４　４９　ｎｄ１　ｎｄ２

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　５４　３１　ｎｈ１　ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１　＝　00ｈ（固定）

ｎｈ２　＝　00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始トリガーを３バイトのデータで返信する。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：設定されている文字列受信時

01ｈ　：全てのオブジェクトが埋まったとき

02ｈ　：設定されている文字数受信時

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・本体に設定されている、印刷開始トリガーを取得する。設定値が、設定されている文字列受信時の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　１　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）

本体からは、０１ｈ　００ｈ　００ｈが返信される。

ＥＳＣ　ｉＸＰ１　印刷開始コマンド設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｐ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８０	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５０	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始コマンドの設定文字列を取得する。

・本体から、３～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）

[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｐ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５０ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを送信すると、 本体からは、０５ｈ　００ｈ　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ（０５ｈ　００ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）と返信される。

ＥＳＣ　ｉＸｒ１　印刷開始受信文字数取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｒ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１４	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７２	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始受信設定文字数を取得する。

・本体からは、４バイトのデータが返信される。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：印刷開始受信文字数

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・印刷受信文字数が５００文字の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７２ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信される。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 文字である。

ＥＳＣ　ｉＸＤ１　区切り記号取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｄ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	６８	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４４	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・区切り記号の設定文字列を取得する。

・本体から、３～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）

[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・区切り記号を，（2Cｈ）に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｄ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４４ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信する。

本体からは、０１ｈ　００ｈ　，（０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ）が返信される。

ＥＳＣ　ｉＸａ１　読み捨て設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ａ	１	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	９７	４９	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６１	３１	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ3：01ｈ（固定）

【解説】

・読み捨て設定文字列を取得する。

・本体から、２～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）
[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）
[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・読み捨て文字列が、“ＡＢＣＤ”の場合。
本体に以下のコマンドを送信する。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　１　０１ｈ　００ｈ　０１h
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６１ｈ　３１ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）
本体からは、以下のように返信される。
０４ｈ　００ｈ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ（０４ｈ　００ｈ　４１ｈ　４２ｈ　４３ｈ　４４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｉ１　コマンドモード設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｉ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０５	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６９	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・コマンドモードの設定値を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード

01ｈ　：ラスターモード

03ｈ　：P-touch Template モード

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

設定値をラスターモードにしてある場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｉ　１　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６９ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）

本体からは、以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｎ１ テンプレート選択番号取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｎ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１０	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ｅ	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・本体で選択しているテンプレート番号を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・選択テンプレート番号が９９の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ｅｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）と本体に送ると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　６３ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｃ１　各種本体設定（カットオプション）の取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｃ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	９９	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６３	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・各種カット設定項目を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：カットなし

01ｈ　：オートカットＯＮ

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・オートカットONに設定されている場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｃ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６３ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｙ１　各種本体設定（カットオプションのカット枚数設定）取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｙ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１２１	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７９	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・一定枚数毎のカット枚数の設定値を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・カット枚数設定を５枚毎に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｙ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７９ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）を本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　０５ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｊ１　国際文字設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　１　ｎ１　ｎ２

【１０進】　２７　１０５　８８　１０６　４９　ｎｄ１　ｎｄ２

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　６Ａ　３１　ｎｈ１　ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・国際文字設定値を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：ＵＳＡ

01ｈ　：フランス

02ｈ　：ドイツ

03ｈ　：イギリス

04ｈ　：デンマーク

05ｈ　：スウェーデン

06ｈ　：イタリア

07ｈ　：スペイン

08ｈ　：日本

09ｈ　：ノルウェー

0Aｈ　：デンマークⅡ

0Bｈ　：スペインⅡ

0Cｈ　：ラテンアメリカ

0Dｈ　：韓国

40ｈ　：リーガル

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・国際文字設定を＜日本＞にしている場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ａｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　０８ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｆ１ プレフィックス文字の取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｆ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０２	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６６	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・プレフィックス文字コードを取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定文字

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・プレフィックス文字を、“__”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｆ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６６ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）を本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ

(“__”)

ＥＳＣ　ｉＸＲ１　改行コマンド設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　１　ｎ１　ｎ２

【１０進】　２７　１０５　８８　８２　４９　ｎｄ１　ｎｄ２

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　５２　３１　ｎｈ１　ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・改行コマンドの設定文字列を取得する。

・本体から、２～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）

[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・改行コマンド文字列を“０Ｄｈ　０Ａｈ”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５２ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを送信すると、 本体からは、０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈと返信される。

ＥＳＣ　ｉＸＣ１　コピー印刷枚数設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｃ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	６７	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４３	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・コピー印刷設定枚数を取得する。

・本体からは、４バイトのデータが返信される。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：コピー印刷枚数

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・コピー印刷設定枚数が５００枚の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４３ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信される。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 枚である。

ＥＳＣ　ｉＸＮ１　ナンバリング印刷枚数設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｎ　１　ｎ１　ｎ２

【１０進】　２７　１０５　８８　７８　４９　ｎｄ１　ｎｄ２

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　４Ｅ　３１　ｎｈ１　ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・ナンバリング印刷設定枚数を取得する。

・本体からは、４バイトのデータが返信される。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：ナンバリング印刷枚数

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・ナンバリング印刷設定枚数が５００枚の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｎ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４Ｅｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信される。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 枚である。

ＥＳＣ　ｉＸＦ１　ＦＮＣ１置換設定取得

【ＡＳＣＩＩ】　ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｆ　１　ｎ１　ｎ２

【１０進】　２７　１０５　８８　７０　４９　ｎｄ１　ｎｄ２

【１６進】　１Ｂ　６９　５８　４６　３１　ｎｈ１　ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・ＦＮＣ１置換設定を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：ＦＮＣ１置換設定ＯＦＦ

01ｈ　：ＦＮＣ１置換設定ＯＮ

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・ＦＮＣ１置換設定ＯＦＦに設定されている場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｆ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４６ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　００ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｑ１　印刷オプション設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｑ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１３	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７１	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷オプション設定値を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：ｎｈ３　設定値

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・印刷オプションが印字品質優先に設定されている場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｑ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７１ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０１ｈ　００ｈ　０１ｈが返信される。

文字コード表

日本文字コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	p			SP	ー	タ	ミ		
1			!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2			”	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3			#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4			$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5			%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6			&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7			’	7	G	W	g	w			ァ	キ	ヌ	ラ		
8			(	8	H	X	h	x			ィ	ク	ネ	リ		
9			)	9	I	Y	i	y			ゥ	ケ	ノ	ル		
A			*	:	J	Z	j	z			ェ	コ	ハ	レ		
B			+	;	K	[	k	{			ォ	サ	ヒ	ロ		
C			,	<	L	¥	l	|			ャ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M	]	m	}			ュ	ス	ヘ	ン		
E			.	>	N	^	n	~			ョ	セ	ホ	゛		
F			/	?	O	_	o	DEL			ッ	ソ	マ	゜		

“■”は、国際文字セットを切り替えると文字コードが切り替わる。

国際文字セット表

Compatible characters in each language when the international character set is switched

n		23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
0	United States	#	$	@	[	\	]	^	`	{	|	}	~
1	France	#	$	à	°	ç	§	^	`	é	ù	è	¨
2	Germany	#	$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
3	Britain	£	$	@	[	\	]	^	`	{	|	}	~
4	Denmark I	#	$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
5	Sweden	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
6	Italy	#	$	@	°	\	é	^	ù	à	ò	è	ì
7	Spain I	Pt	$	@	¡	Ñ	¿	^	`	¨	ñ	}	~
8	Japan	#	$	@	[	¥	]	^	`	{	|	}	~
9	Norway	#	¤	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
10	Denmark II	#	$	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
11	Spain II	#	$	á	¡	Ñ	¿	é	`	í	ñ	ó	ú
12	Latin America	#	$	á	¡	Ñ	¿	é	ü	í	ñ	ó	ú
13	Korea	#	$	@	[	₩	]	^	`	{	|	}	~
64	Legal	#	$	§	°	´	"	¶	`	©	®	†	™